

二月二四日

二一時前雪のヘルシンキ空港着。フランクフルト経由。成田フランクフルトを飛んだルフトハンザ機中に世田谷日記メモを置き忘れた。それ故二月二〇日～二月二四日までの記録は紛失。残念だが仕方ない。余り下らん内容なので天罰だろう。二三日は午後慶応大学図書館の千村君が研究室来室。昨年末天王台酔庵での書道というか初書き初めが面白かったらしく、あの日書いた核の一文書を額装して見せに来てくれたのだ。そして書道をする為のデスクというか架台を作る相談をした。たった一人の千村君のためのデザインである。まことに光栄な事だ。何年か前ブラジルのサンパウロ大学を訪ねた時、リオデジャネイロ大学のマスターコースの女学生の作品に衝撃を受けたことがある。老女がいてその人は病気だ。まぶたが自然に垂れ下がる病気で目が視えない。彼女は老女の為に眼鏡をデザインした。まぶたが垂れ下がらないようにする眼鏡である。世界でたった一人の老女のための一つだけの眼鏡である。

手足が不自由な千村君のための書道用のデスクはリオの女学生の作品の背中を見て走ってみるといふ事である。口でかんで筆を使い、すみをふくませる。その筆と架台をデザインするのだ。それを始まりに段々千村君の色んな道具をデザインしてみようと考えている。出来ればそれを一冊の本にしてみよう。今秋には千村君の書の個展がひらけたら良い。

SASラディソンホテルに着いたら、何と他の栄久庵憲司会長等メンバーは成田でフィンランド航空機が故障してしまつたらしく一日遅れでヘルシンキ着との事。明日のヘルシンキ芸術工科大学の講演は鈴木博之だけという事になるかも知れぬ。それでも鈴木先生がフィンエアでなくルフトハンザでヘルシンキに入ったのは不幸中の幸いだった。それでようやく日本フィンランドデザイン協会主催のヘルシンキでのセレモニーが成立するんだから。全く何が起きるか解らないな。

もう二四日七時二〇分世田谷村を出て二十四時間ほとんど眠っていない。明日の事は明日だ休もう。

二月二五日

七時過起床。ホテルの窓からの景色をスケッチする。ヘルシンキ駅のナショナル・ロマンティズム特有の様式的な塔が視えている。この塔は二年前にスケッチした。淡いブルーの空。フィンランドの国旗のブルーの十字が良く似合っている。TVのスクリーンに私へのメッセージがあると出ている。世田谷村でやり残した病院のコンペのレイアウトその他が送られてきたのだろう。疲れもとれて体調は良い。

朝食後鈴木さんとヘルシンキ市街中心部を歩く。駅美術館アカデミーブックショップ。ステイブン・ホルの現代美術館は又も月曜休みで入れず。しかしこの美術館も冬の方が良い。空気が澄んでいて作者の考えが良く伝わってくる。カフェアールトではばし雑談。昼前ホテルに戻る。ヘルシンキは国旗が沢山ひるがえっている。

十三時チヨット前ヘルシンキ芸術工科大学へ。鈴木博之その他のレクチャー。鈴木氏のものは方法的明快さが貫徹された大変良

いレクチャーであった。演題は Listen to the Place: Character of Japanese Architecture 庭園を介して日本文化を歴史的に考  
えるというモノ。日本日本と言うのは嫌なんだが、それでも日本  
人の外国でのレクチャーの水準は気になった。鈴木博之のそれは  
否応ない水準を確保し、それ以上のものがあつた。満足。アラビ  
アセラミック、ハックマンその他の合同企業主催の歓迎ディナー  
が夕方あつて、夜ホテルへ戻る。色々思うことあり、鈴木氏とビ  
ールを黙々と飲んだ。

二月二六日

昨夜半、T O K Y O 成田に一日足留めされていた栄久庵憲司さ  
ん一行はロンドン経由で、他のメンバーはフィンエアでヘルシ  
ンキに着いた筈だ。昨日の事、すなわち会長以下大半のメンバー  
が不在の日本フィンランドデザイン協会のシンポジウムは大アク  
シデントだったな。鈴木氏一人で一日を持たせた。今日はようや  
く正常なスケジュールに戻るだろう。本日の予定は次の通りであ  
る。

Tuesday 26 DAY OF COLLABORATION - CONTEMPORARY FINNISH DESIGN

09.00 Departure from hotel by taxi University of Art and Design Helsinki

09.30 JFDA meeting

Lecture hall, 8th floor

Subject:

Contemporary Finnish Design - Designing the Quietness - exhibition

Chairperson:

Yrjö Sotamaa

Participants:

JFDA Japan, JFDA Finland, 15 Finnish artist who have been invited to  
participate to the exhibition, altogether 40 persons

12.30 Lunch in the foyer of Media Center Lume for participants of the JFDA meeting

13.30 - 15.30 Meeting of the JFDA Japan and JFDA Finland exhibition groups

Office of Rector Yrjö Sotamaa, 6th floor

## Topics

- content, schedule, venue, organisation and financing of the 2003 exhibition
- discussion of possible interaction with Japanese architects, designers, artists and craftsmen during the 2003 exhibition in Japan
- discussion of the "Contemporary Japanese Design" exhibition in Finland 2005: feasibility, planning procedure, schedule

The afternoon is free for those members who do not belong to the exhibition teams. A visit to the Hackman shop can be arranged with a possibility by products with special discount.

Transport to city/hotel by taxi or by tram nr 6 or bus

17.30 Transport from hotel to the Museum of Art and Design by Taxi

Korkeavuorenkatu 23, 00130 Helsinki

Phone + (358 9) 6220540

Fax + (358 9) 6220 5455

18.00 Opening of the exhibition

AYA's works

In the presence of the Artist Aya Nakayama,

By Minister Mr Kamoto, Dr Kenji Ekuan and Professor Yrjö Sothman

The exhibition is jointly organized by the Japan Finland Design Association,

The University of Art and Design Helsinki, The Museum of Art and Design and

it is designed and constructed by Mr. Akihiro Miyake in co-operation with

professor Yrjö Wehemo. Poster, invitations and brochure are designed by

professor Tapani Aartomaa.

19.15 Transport by bus From the Museum to Villa Angelica

Tamminteitie 3, Helsinki

19.30 Reception and dinner organized by the Japanese Embassy in Villa Angelica, address: on the occasion of Mrs Nakayama's exhibition and the visit of JFDA Japan to Finland.

Host Minister Mr Kamoto, Embassy of Japan

Return to hotel by taxi.

只今朝六時半今日は一日時差に苦しみそうな気がする。朝食で皆さんに再会するのが楽しみだ。彼等は大変だったろう。

朝食でロンドン経由の栄久庵さん以下皆さんに会った。意外に元気でにぎやかだった。集団だからアクシデントにも平気だったのか。皆で渡れば恐くなかったのかな。

午前中はヘルシンキ芸術デザイン大学でフィンランド若手アーティスト、デザイナー、建築家達十五名のプレゼンテーションに立会う。来年TOKYOでのフィンランド展に参加する若い世代の代表らしい。昼食後ソタマ学長栄久庵憲司氏等とTOKYOでのフィンランド展に関して議論する。フィンランド側から出てきたコンテンポラリー・フィニッシュという主題に少しばかり異論を述べた。「静けさ」というコンセプトが消えそうになっているからだ。「静けさ」というテーマは重要なキーワードである。それは日本にとってポスト生産ポスト過消費ポスト過建設を意味し得る深い概念になり得る言葉なのだ。

十八時中山アヤさんの個展オープニング。後、日本大使館主催のダイナー。都心から少し外れた一軒屋のレストラン。二三時過ホテルに戻った。流石に疲れて部屋に戻る。食べるのにもエネルギーが要る。話すのにも、話を聞くのにも要るものだ。明日は北極圏ラップランド地方へ出掛ける。しかしダイナーのレストランとお内儀というかマダムの巨体には驚いたな。あのマダムの存在感の前に我々は皆消えていた。